

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
家庭	家庭基礎	普通科 農業科学科 海洋科学科 ビジネス科	1年 1年 1年 2年	2単位	高等学校 家庭基礎 持続可能な未来をつくる (第一学習社)	なし

学習の到達目標	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 ・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。
----------------	---

評価の観点と評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な内容について理解するとともに、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。
定期テスト、 作品課題	定期テスト（記述問題等） レポート課題、ホームプロジェクト	グループワーク、発表、実習態度 レポート課題、ホームプロジェクト

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
4	・ホームプロジェクトとは ・学校家庭クラブとは	<ul style="list-style-type: none"> ・「ホームプロジェクト」の意義と実施方法について理解している。 ・生活の中から課題を見出し、個人単位で主体的に計画を立てて問題の解決に取り組もうとしている。 ・「学校家庭クラブ活動」の意義と実施方法について理解している。 	○ ○		○
4	1章 これからの生き方と家族 1節 生涯の生活設計 2節 家族・家庭と社会とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯発達の視点に立って、乳児期から高齢期までのライフステージの特徴と課題を見通し、その課題を他者と関わりながら達成しつつ、生まれてから死ぬまで発達し続けていくという考え方を理解している。 ・誰もが同じような方法や選択で課題を達成するのではなく、一人一人が異なる過程をたどり、様々な生き方があることを理解している。 ・ライフステージの特徴と課題、ライフイベントと関連付けたり、職業選択、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を維持できる環境について考察したりして、生活設計を工夫している。 ・生活設計を通して社会の動きを見つめ、広い視野をもって生活を創造していくことや不測の事態にも柔軟に対応する必要性を認識し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとしている。 	○ ○ ○	○	○
4 5	2章 次世代をはぐくむ 1節 子どもの発達 2節 子どもの生活 3節 子育て支援と福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期は人間の発達の段階において最も発達が著しい重要な時期であることや、子どもの発達には、個人差はあるが、一定の方向性や順序性があることを理解している。 ・乳幼児期の愛着の形成は将来の人間関係の基礎となることを理解した上で関わり方について考察し、表現している。また、乳幼児期は、発達の段階に応じた働きかけが重要であることを親の保育態度と関連付けて理解している。 ・社会的自立のためには、子どもの発達に応じて、基本的生活習慣や社会的な規範を身に付けさせることが親や家族の重要な役割であることを理解している。 ・保育に対するニーズが多様化していることや、集団保育の特徴や役割、子どもの福祉について理解している。 ・子どもの育つ環境にどのような課題があるかを考え、子どもの健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について考察し、表現している。 ・親や保育者が乳幼児と関わる姿の観察や子育てについてのインタビューを通して、乳幼児と適切に関わるための基礎的スキルを身に付けている。 ・子どもを生み育てることの意義や地域の一員として子どもの成長に関わることの意味について考え、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとしている。 	○ ○ ○ ○ ○	○ ○	○

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
5 6	3章 充実した生涯へ	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援、介護の方法について理解している。 ・近年の高齢者福祉の基本的な理念や高齢者福祉サービス、社会の現状と今後の解決すべき課題について理解している。 ・介護が必要になった場合、家族、地域及び福祉サービス等の連携により社会全体で高齢者を支える仕組みや在り方について考察し、表現している。 	○ ○	 ○	
6 7	4章 ともに生きる	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的制度、社会福祉の基本的な理念、共に支え合って生きる社会の考え方について理解している。 ・生涯を通して誰もが自分の力を生かし、他からの援助も得ながら安心して暮らせる社会の構築のために、協力・協働の視点からどのような理念や社会的支援及びシステムが必要かなどを考察し、表現している。 ・共に支え合う社会を実現するために、個人や地域社会がどのような役割を果たし、つながっていけばよいかについて考え、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとしている。 	○	 ○	 ○
7	5章 食生活をつくる 1節 人の一生と食事	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活を取り巻く環境が変化している現状や青年期における毎日の食事の重要性について理解している。 ・自分の食生活について振り返り、健康で安全な食生活について考察し、表現している。 	○	 ○	
9 10	5章 食生活をつくる 2節 栄養と食品 3節 食生活の安全のために 4節 食生活をデザインする	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の種類と機能、食品の栄養的特質や調理上の性質を理解している。 ・食品の腐敗や変敗、食中毒、食品添加物などについて食品の購入、調理、保存と合わせて理解している。 ・食事摂取基準や食品群別摂取量の目安などを理解し、栄養的にバランスがとれ、ライフステージに応じた家族の食事を計画し、表現している。 ・食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について考察し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとしている。 	○ ○	 ○	 ○
11 12	6章 衣生活をつくる 1節 人の一生と被服 2節 被服材料と管理 3節 これからの衣生活	<ul style="list-style-type: none"> ・保健衛生上、生活活動上、社会生活上の機能を生かした適切な着装や、繊維、糸、布の代表的な種類とそれらの特徴、性能について理解している。 ・汚れが落ちる仕組みや洗濯方法の特徴を理解し、被服の洗濯、保管などに関する基本的な技能を身に付けている。 ・保有する被服の有効な活用や補修、生活者として自立する上で必要な技能を身に付け、小物を製作することができる。 ・被服の機能性や快適性、安全で健康や環境に配慮した被服の管理、目的に応じた着装についての課題を解決するために、健康・快適・安全、持続可能な社会の構築などの視点から、よりよい衣生活の創造について考察し、表現している。 ・ライフステージ、ライフスタイルに応じた安全で健康な被服の計画・管理を目指し、自己と家族の衣生活についての問題を見だし、主体的に考え、生活の充実向上を図ろうとしている。 	○ ○ ○	 ○	 ○
1	7章 住生活をつくる 1節 人の一生と住まい 2節 住生活の計画と選択	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解し、適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 ・健康・快適・安全、持続可能な社会の構築などの視点から、よりよい住生活の創造について考察し、表現している。 ・住居と地域社会との関わりについて考察し、防災などの安全や環境に配慮した住生活を工夫し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとしている。 	○	 ○	 ○
1 2	8章 経済生活をつくる 1節 私たちの暮らしと経済 2節 消費者問題を考える 3節 持続可能な社会をめざして	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭経済と国民経済との関わりなど経済循環における家計の位置付けとその役割の重要性について理解している。また、収支バランスの重要性とともに、リスク管理も踏まえた家計管理の基本について理解している。 ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、各ライフステージの特徴と課題、家族構成や収入・支出の変化、生涯の賃金や働き方、社会保障制度などと関連付けながら考察し、表現している。 ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解し、生活情報を適切に収集・整理している。 ・自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について考察し、表現している。 ・生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解するとともに、持続可能な社会へ参画することの意義について理解している。 ・持続可能な社会とはどのような社会であるか、また、安全で安心な生活と消費とはどのようなものであるかについて多面的・多角的に考察するとともに、生産と消費の在り方を含めてどのようなライフスタイルが工夫できるか具体的に考察し、実践しようとしている。 	○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○	 ○

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
家庭	家庭総合	生活福祉科	1年	4単位	高等学校 家庭総合 持続可能な未来をつくる (第一学習社)	家庭科問題集 基礎編 (家庭科教育振興会)

学習の到達目標	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。 ・家庭や地域及び社会における生活の中から課題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。
----------------	---

評価の観点と評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な知識と、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から課題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。
定期テスト、課題提出、作品、実技テストなど	定期テスト（記述問題など）、レポート課題、グループワーク、発表、ホームプロジェクトなど	課題提出、グループワーク、発表、実習態度、ホームプロジェクト、学習の振り返りなど

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
4	家庭科の学び方ー学習から実践へ ・ホームプロジェクトとは ・学校家庭クラブ活動とは	<ul style="list-style-type: none"> ・「ホームプロジェクト」の意義と実施方法について理解している。 ・生活の中から課題を見出し、個人単位で主体的に問題の解決の計画を立てることができる。 ・「学校家庭クラブ活動」の意義と実施方法について理解している。 ・ホームルーム単位または家庭科の講座単位、さらに学校としてまとまって、学校や地域の中から課題を見出し、グループ単位で主体的に計画を立てて問題の解決に取り組もうとしている。 	○ ○	○	○
4 5	5章 食生活をつくる 1節 人の一生と食事	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活を取り巻く環境が変化している現状や健康で安全な食生活を営むための基本を理解している。 ・自分の食生活を振り返り、課題を見出して見直しを図り、適切な食料消費の在り方について考察している。 ・家庭や地域の生活のなかで、食文化を維持・伝承していくことの大切さを認識し、主体的に食生活の充実・向上につなげようとしている。 	○	○	○
5 6	2節 栄養と食品	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活を送るうえで必要な栄養素とそのおもな働き、各栄養素を多く含む食品を理解している。 ・調理加工食品および健康食品の取り扱いについて、基本的な知識を身に付けている。 ・健康増進のための食品について、表示を確認し、自分や家族の身体状況に応じて食品の選び方を工夫している。 ・栄養素や食品について関心をもち、主体的に日常の食生活に応用しようとしている。 	○ ○	○	○
6 7	3節 食生活の安全のために	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の選択・購入にあたって、有機農産物や遺伝子組換え食品などの鑑別法、および食品表示・栄養表示の読み取り方を理解している。 ・食中毒の原因と予防法など、食品の安全・衛生にかかわる基本的な知識を身に付けている。 ・食品の安全・衛生の観点から、食品の選択・管理について主体的に判断し、食品を適切に扱うことについて工夫している。 ・食品表示・栄養表示に関心をもち、日常から栄養のとり方に注意するなど実践的に取り組もうとしている。 	○ ○	○	○

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
4 5	6章 衣生活をつくる 1節 人の一生と被服 2節 被服材料と管理	<ul style="list-style-type: none"> ・被服と人との関わりを踏まえ、各ライフステージの衣生活の特徴や課題について理解している。 ・目的や個性に応じた健康で快適、機能的な着装について考察し、表現することができる。 ・繊維、糸、布の代表的な種類とそれらの特徴、性能について科学的に理解し、適切な被服材料の選択や取扱いができる力を身に付けている。 ・洗剤の働きと汚れが落ちる仕組みや洗濯方法の特徴を理解し、被服の洗濯、保管などに関する基本的な技能を身に付けている。 ・健康と安全、環境に配慮した自己と家族の衣生活の計画・管理に主体的に取り組もうとしている。 	○	○	○
6 7	3節 これからの衣服 4節 被服の製作	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の衣生活の変遷を通して、伝統的な和服の構成や材料、着装の特徴を理解している。 ・古くからの衣文化に蓄積された知恵や経験について考察し、表現することができる。 ・既製服の生産と流通、循環型社会の持続に配慮した衣生活のあり方について理解している。 ・布を使った伝統的な生活の工夫やエシカルファッションに関心をもち、衣生活の面からできる、環境に負荷を与えない行動を主体的に考え、実践しようとしている。 ・被服製作を通して、被服の基本構成や製作手順、採寸などについて基本的な知識・技術を身に付けている。 	○	○	○
9 11	5章 食生活をつくる 4節 食生活をデザインする	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の維持・増進、体の成長のために必要な食事摂取基準やライフステージ別の栄養の特徴と食生活の課題、嗜好の変化などについて理解している。 ・家族の性、年齢、身体活動レベルに応じた摂取量のめやすから、家族の食生活の課題を見だし、改善策について考察している。 ・調理実習を通して、計量器や調理器具の使い方、野菜の切り方など調理の基本技術を習得している。 ・食品の栄養的特性や加工・調理、年齢に配慮した食事づくりなどに関心をもち、自己や家族の食生活の計画・管理に主体的に取り組もうとしている。 	○	○	○
9 10	2章 次世代をはぐくむ 1節 子どもの発達 2節 子どもの生活 3節 子育て支援と福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の心身の発達と生活、子どもの遊びと文化、親の役割と保育、子育て支援について理解を深め、子どもの発達に応じて適切に関わるための技能を身に付けている。 ・子どもを取り巻く社会環境の変化や課題及び子どもの福祉について理解している。 ・乳幼児との触れ合いや交流、親子への観察やインタビューなどを通して子どもを生き育てることの意義や保育の重要性について考え、子どもの健やかな発達を支えるために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性を考察するとともに、子どもとの適切な関わり方を工夫することができる。 ・保育に対するニーズが多様化していることも踏まえ、自分が住む地域の子育て支援策や課題を調べて意見交換するなど、主体的に地域の一員として子どもの成長に関わろうとしている。 	○	○	○
10 11	3章 充実した生涯へ	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢期の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解を深め、高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための生活支援に関する技能を身に付けている。 ・高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題及び高齢者福祉について理解している。 ・高齢化が進んでいる実態を把握し、その原因と課題を探るとともに、高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察し、適切な支援の方法や関わり方を工夫することができる。 ・高齢者の生活に関心をもち、高齢者が安心して自立的な生活を送ったり、活躍したりできる社会の実現に向けて、自分たちの視点でしくみづくりの提案をするなど主体的に行動しようとしている。 	○	○	○
12 1	4章 とともに生きる	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。 ・家庭と地域との関わりについて理解するとともに、高齢者や障害のある人々など様々な人々が共に支え合って生きることの意義について理解している。 ・ノーマライゼーションの理念を土台として、地域のバリアフリーやユニバーサルデザインなどについて具体的事例を通して考察し、様々な人々との関わり方を工夫している。 ・家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもち、ボランティア活動に参加するなど、福祉の充実・向上を目指して主体的に行動しようとしている。 	○	○	○

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
12 1	7章 住生活をつくる 1節 人の一生と住まい 2節 住生活の計画と選択	<ul style="list-style-type: none"> ・住生活を取り巻く課題、日本と世界の住文化など、住まいと人との関わりについて理解している。 ・ライフステージの特徴や課題に着目し、住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について科学的に理解し、住生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 ・家族の生活やライフスタイルに応じた持続可能な住居の計画について理解し、快適で安全な住空間を計画するために必要な情報を収集・整理し、これからの住まい方を考察し、工夫することができる。 ・生活の拠点としての住居の重要性を認識し、よりよい住空間やまちづくり、日本の住文化の継承・創造に主体的に取り組もうとしている。 	○ ○	 ○	 ○
2 3	8章 経済生活をつくる 1節 私たちの暮らしと経済 2節 消費者問題を考える 3節 持続可能な社会をめざして	<ul style="list-style-type: none"> ・家計の構造やリスク管理も踏まえた家計管理の基本、生活における経済と社会との関わりについて理解している。 ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージごとの課題や社会保障制度などと関連づけて考察し、工夫している。 ・消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や責任ある消費の重要性について理解するとともに、契約の重要性や消費者保護の仕組みについても理解している。 ・自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動できるよう考察し、工夫することができる。 ・消費者としての権利と責任について明確な認識をもち、日常の中で課題意識をもって実践的に取り組もうとしている。 ・生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解するとともに、持続可能な社会へ参画することの意義について理解している。 ・消費者の立場として、安全で安心な生活と消費及び生活文化について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・自己の行動が現在及び将来の世代にわたって影響を及ぼすことを自覚し、主体的にエシカル消費に取り組もうとしている。 	○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○	 ○ ○
2 3	1章 これからの生き方と家族 1節 生涯の生活設計 2節 家族・家庭と社会とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解するとともに、自立した生活を営むために、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解している。 ・生活の営みに必要な家族、金銭、空間、生活時間などの生活資源について、それらに関わる情報を収集・整理することで、生活資源を有効活用したり、生活の中での様々なリスクへの対応や回避に役立ったりすることを理解している。 ・生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考察するとともに、生活資源を活用して生活設計に取り組もうとしている。 ・生涯発達の視点から各ライフステージの特徴と課題について理解するとともに、青年期の課題である自立や男女の平等と協力、意思決定の重要性について理解している。 ・家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭と法律、家庭生活と福祉などについて理解するとともに、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わり、家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題について理解している。 ・家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について考察し、工夫している。 ・多様な人のワーク・ライフ・バランスを維持できる環境づくりや多様な家族への支援が求められている現状に関心をもち、話し合ったり、学び合ったりしながら生活の充実・向上に結びつけようと主体的に取り組もうとしている。 	○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○	 ○ ○

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
家庭	生活産業基礎	生活福祉科	1年	2単位	なし	生活産業基礎（実教出版）

学習の到達目標	<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して衣食住、ヒューマンサービスなどに関する生活産業や関連する職業を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活産業や関連する職業について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 生活産業や関連する職業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 生活産業や関連する職業への関心を高め、適切な進路選択と専門性の向上を目指して自ら学び、生活産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
----------------	--

評価の観点と評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活産業や関連する職業について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	生活産業や関連する職業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	生活産業や関連する職業への関心を高め、適切な進路選択と専門性の向上を目指して自ら学び、生活産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
定期テスト	定期テスト（記述問題） レポート課題 グループワーク、発表など	レポート課題、グループワーク、 発表、講演レポート、 学習の振り返りなど

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
4	第1章 「生活産業」を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 生活産業の役割と消費者の多様なニーズについて理解している。 消費の中心が情報やサービスに移行していく状況を理解している。 生活産業によって人々の生活が支えられていることについて思考を深めることができる。 人の一生と生活文化への関心を持ち、生活産業がどのような役割を果たしているか主体的に知ろうとしている。 	○ ○	○	○
5	第2章 ライフスタイルの変化に対応した商品・サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> 消費者ニーズを的確にとらえることの必要性と、商品を企画し提供していく上で必要なマネジメントの手法、関係法規の概要や主旨を理解し、関連する技術を身に付けている。 市場調査の結果を分析した上で課題を発見し、解決法を考察している。 商品・サービスの企画・開発・販売・提供について自ら学ぼうとし、主体的に取り組もうとしている。 	○	○	○
6 7	第3章 食生活関連分野	<ul style="list-style-type: none"> 食品製造業、外食産業、中食産業、食品流通業について意義と役割を理解している。 食生活関連分野の職業と資格について理解している。 食品製造業、外食産業、中食産業、食品流通業の動向について深く考察し、課題を発見し、解決法を示している。 自分自身の食生活と社会の食の現状に関心を持ち、改善しようとしている。 	○ ○	○	○
9 12	第4章 衣生活関連分野	<ul style="list-style-type: none"> アパレル素材産業、アパレル産業、ファッション小売業の意義と役割を理解している。 エシカルファッション、新しい技術を取り入れたファッション、ファッションの多様化、ファッションビジネスの多様化について理解している。 アパレル素材産業、アパレル産業、ファッション小売業の動向をふまえ、課題を発見し、解決法を考えている。 衣生活に関わる産業に興味・関心をもって自ら学ぼうとしている。 	○ ○	○	○
9 12	第5章 住生活関連分野	<ul style="list-style-type: none"> 注文住宅、建売住宅や企画住宅の建築設計や販売にかかわる産業、インテリアやリフォームにかかわる産業などを取り上げ、意義と役割を理解している。 ライフスタイルの変化によって住まいの形も変化してきたことを理解している。 自分自身の住生活と関連する産業の現状に関心を持ち、改善しようとしている。 住生活にかかわる職業と資格について情報を収集・整理し、蓄積している。 	○ ○	○	○
1 3	第6章 ヒューマンサービス関連分野	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者、障がい者、子どもにかかわる各産業や、介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士、幼稚園教諭、保育士、ベビーシッター、福祉用具や子ども用品に関する職業などについてその意義と役割について理解している。 ヒューマンサービス関連分野における現代の課題を発見し、解決方法について 	○	○	○

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
		<ul style="list-style-type: none"> ・深く考え、発表している。 ・ヒューマンサービスに関連する資格や職業に興味・関心をもって自ら学ぼうとしている。 			○
1 3	第7章 なりたい自分になるために	<ul style="list-style-type: none"> ・人は何のために働くのかについて、他者の考えを聞き、自分の考えをまとめようとしている。 ・なりたい自分になるためには何が課題か発見しようとしている。 ・生活産業に関わる職業人に求められる資質・能力、役割・責任、職業資格などについて理解している。 	○	○	○

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
家庭	生活産業情報	生活福祉科	1年 2年 3年	2単位 1単位 1単位	生活産業情報 (実教出版)	全商ビジネス文書実務検定 模擬問題集3級(実教出版) 全商情報処理検定 模擬問題集3級(実教出版)

学習の到達目標	<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用し、生活産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活産業の各分野における情報の意義や役割、情報及び情報技術を活用する方法について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 生活産業に関する課題を情報及び情報技術を活用して発見し、生活産業を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 生活産業における情報及び情報技術の活用や専門性の向上を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
----------------	--

評価の観点と評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活産業の各分野における情報の意義や役割、情報及び情報技術を活用する方法について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	生活産業に関する課題を情報及び情報技術を活用して発見し、生活産業を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	生活産業における情報及び情報技術の活用や専門性の向上を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
定期テストなど	定期テスト(記述・論述問題)、レポート課題、発表など	レポート課題、発表、学習の振り返りなど

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
4	第1章 情報化の進展と生活産業 1節 情報化の進展と社会 2節 生活産業における情報化の進展	<ul style="list-style-type: none"> 情報化の進展に伴う産業や生活の変化について理解している。 生活産業におけるコンピュータ等の情報機器や情報通信ネットワークの役割や利用状況について理解し、情報化が及ぼす影響について考察している。 情報化の進展と生活産業について自ら学び、生活の質の向上に取り組もうとしている。 	○	○	○
5	第2章 情報モラルとセキュリティ 1節 ネットワーク社会の危険性 2節 情報モラルとマナー 3節 セキュリティ管理	<ul style="list-style-type: none"> 個人のプライバシーや著作権など知的財産の保護、収集した情報の管理、発信する情報に対する責任など情報モラルと法令遵守の必要性、情報通信ネットワークの仕組み及びセキュリティ管理の方法について理解している。 情報モラルやセキュリティ管理に関する課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。 情報モラルとセキュリティについて自ら学び、生活の質の向上に取り組もうとしている。 	○	○	○
5 9	第6章 情報の処理・分析・発信 1節 日本語ワードプロセッサの利用 2節 表計算ソフトの利用 3節 画像利用ソフトの利用 4節 プレゼンテーションソフトの利用 5節 Web ページ作成ソフトの利用	<ul style="list-style-type: none"> タイピングスピード向上を目指しながら、文章を作成する力を身に付け、見やすい文章の作成のための操作方法を理解している。 基本的な操作方法を理解しているとともに、基本的なデータ処理やグラフを作成する力を身に付けている。 HTML 言語からホームページの仕組みを理解し、基本的なページを作成する力を身に付けている。 コンピュータの基本操作に関する課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。 コンピュータの基本操作について自ら学び、生活の質の向上に取り組もうとしている。 	○	○	○
10	第3章 生活産業における情報及び情報手段の活用 1節 生活産業における情報活用の意義 2節 生活産業における情報活用の実際	<ul style="list-style-type: none"> 衣食住、保育、家庭看護及び介護などのヒューマンサービスにかかわる生活産業の情報を、情報機器や情報通信ネットワークを利用して、実際に収集、処理、分析、発信する技術を身に付けている。 目的や対象に応じたコミュニケーションの方法や、情報デザインについて課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。 生活産業におけるコミュニケーションと情報デザインについて自ら学び、生活の質の向上に取り組もうとしている。 	○	○	○

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
11 12	第7章 さまざまな分野における利用 1節 食生活関連分野での利用 2節 衣生活関連分野での利用 3節 住生活関連分野での利用 4節 ヒューマンサービス分野での利用 5節 消費生活分野での利用	<ul style="list-style-type: none"> 生活産業に関するコンピュータシステムとして、CAD/CAMシステム、シミュレーションシステム、データベースシステム、商品管理システムなどについて、具体的な事例を通して理解している。 衣食住、ヒューマンサービスの各分野において、情報機器や情報通信ネットワーク及び各種アプリケーションソフトの利用により、収集、処理、分析、発信を通して、情報コンテンツの作成について工夫している。 生活産業におけるコミュニケーションと情報デザインについて自ら学び、生活の質の向上に取り組もうとしている。 	○	○	○
1 2	第4章 情報機器のしくみ 1節 コンピュータのしくみ 2節 ハードウェア 3節 ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータなどの情報機器の仕組みやハードウェアとソフトウェア及び情報通信ネットワークの仕組みについて理解し、コンピュータの基本操作を習得している。 コンピュータの機能と構成を理解し、基本的な操作をする力が身についている。 コンピュータの基本操作に関する課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。 コンピュータの基本操作について自ら学び、生活の質の向上に取り組もうとしている。 	○	○	○
3	第5章 情報機器と情報通信ネットワーク 1節 情報通信ネットワークのしくみ 2節 情報通信ネットワークの利用	<ul style="list-style-type: none"> 情報通信ネットワークの仕組みについて理解している。 情報通信ネットワークの利用に関する課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。 情報通信ネットワークの利用について自ら学び、生活の質の向上に取り組もうとしている。 	○	○	○

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
家庭	課題研究 (食物)	生活福祉科	3年	4単位	フードデザイン Change LIFE (教育図書)	家庭科問題集 食物編 (家庭科教育振興会)

学習の到達目標	<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、生活の質の向上や、社会を支え生活産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。 生活産業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、生活産業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
----------------	--

評価の観点と評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けている。	生活産業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、生活産業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
小テスト、課題提出、実技評価など	レポート課題、実習の記録、献立作成、グループワーク、発表など	課題提出、実習態度、実技評価、グループワーク、発表、学習の振り返りなど

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
4 9	課題設定 (食物分野に関する課題設定) 調査・研究 まとめ・発表	<ul style="list-style-type: none"> ヒューマンサービスに係わる生活産業に関する事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の伝承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、理解を深めている。 生活産業の食物分野について、生活ニーズや業界の動向などの諸課題を把握し、これまでの学習で得られた知識や技術に関連づけたリ、整理したりしながら解決の方策を考えることができる。 課題解決に向けて、実践的・体験的な学習に主体的に取り組むとともに、自らの考えを表現したり、議論したりしながら周囲と協働して学びを進めようとしている。 調査・研究およびその成果についてまとめ、発表したり、自己評価したりしている。 	○	○	○
10 1	家庭科食物調理技術検定1級 ・筆記試験 ・献立作成 (供応食・行事食等) ・実技試験 (供応食・行事食等)	<ul style="list-style-type: none"> 栄養や調理、食品衛生、料理様式とテーブルコーディネートなどについて理解している。 献立作成の意義について理解し、指定料理を取り入れた献立作成及び栄養計算をすることができる。 主題に基づいて指定の品数で、性別、年齢、生活活動などに応じた摂取量や材料、調理法を考慮し、目的や対象にふさわしい献立を工夫している。 各自が作成した献立表に基づいて指定時間内に調理することができる。 評価基準に従って評価し、課題を見つけ、改善することができる。 主体的に技術検定のための学習に取り組み、食に関わる知識と技術の深化、総合化や進路意識の明確化を図ろうとしている。 	○	○	○

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
家庭	課題研究 (被服)	生活福祉科	3年	4単位	なし	全国高等学校家庭科 問題集 被服編 (家庭科教育振興会)

学習の到達目標	<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、生活の質の向上や、社会を支え生活産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 生活産業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、生活産業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
----------------	---

評価の観点と評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けている。	生活産業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、生活産業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
作品課題 実技評価 など	作品課題・発表 実技評価 など	作品課題 実技評価 レポート課題 など

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
4 5	<p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究を学ぶにあたって <p>家庭科技術検定被服製作2級 洋服(シャツ・ブラウス) 実技試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・裁断、印つけ ・縫製 ・仕上げ ・着装 <p>筆記試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洋服の構成と製作 ・デザインと型紙の活用 ・ファッションデザインの基礎 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活産業の被服分野について、これまでに学んだ知識や技術を活かし、各自の研究テーマにより学習を進めることを理解している。 ・布地に適合した糸と針を選択し、針目、縫い方、縫い代の始末など縫製に関する基礎的な事項について理解している。 ・被服製作過程で生じた残布などについて取り上げ、資源や環境に配慮した材料の扱い方について考えようとしている。 ・技法の学びや実践を通して、作品製作に積極的に取り組もうとしている。 ・着心地への工夫など、自分から課題を見つけ、その解決に向けた工夫を実践しながら実習に取り組もうとしている。 ・検定基準に従って、洋服の構成と製作に関する知識と技術を持ち、日常着を製作することができている。 ・洋服の構成と日常着の製作に関する知識・技術を理解している。 ・ファッションデザインの基礎を習得し、活用することが理解できている。 	○	○	○
			○	○	○

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
6 9	ドレス製作 ・フォーマルドレス等オリジナル作品製作 ・着装の工夫 ・発表（ファッションショー）	・ファッション作品を創造的に製作するために、フォーマルドレス等のデザインおよび製作に関わる技術を取得し、作品製作に活かそうとしている。 ・ドレスに合わせた服飾や小物製作において、素材や縫製の仕方を工夫している。 ・情報機器を活用した効果的なプレゼンテーションを工夫し、ドレスを着装して発表しようとしている。	○	○	○
10 1	家庭科技術検定被服製作1級 洋服 総裏ジャケット製作 実技試験 ・裁断、印つけ ・仮縫い、補正 ・縫製 ・仕上げ ・着装 筆記試験 ・裏つき洋服の構成と製作 ・デザインと型紙製作・活用 ・洋服の着装とマナー ・ファッションデザインの基礎 まとめ ・研究集録の作成	・布地に適合した糸と針を選択し、針目、縫い方、縫い代の始末など縫製に関する基礎的な事項について理解し、応用することができている。 ・被服製作過程で生じた残布などについて取り上げ、資源や環境に配慮した材料の扱い方について考えようとしている。 ・技法の学びや実践を通して、作品製作に積極的に取り組もうとしている。 ・着心地への工夫など、自分から課題を見つけ、その解決に向けた工夫を実践しながら実習に取り組もうとしている。 ・検定規準に従って、裏つき洋服の構成と製作に関する専門的な知識・技術を持ち、外出着を製作することができている。 ・裏つき洋服の構成と外出着の製作に関する知識・技術を理解している。 ・デザインによる型紙の活用の仕方を理解している。 ・ファッションデザインの基礎を習得し、活用の仕方が理解できている。 ・各自の課題に対する研究の成果を集録にまとめることができている。	○	○	○

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
家庭	課題研究 (保育・福祉)	生活福祉科	3年	4単位	なし	全国高等学校家庭科 保育技術検定過去問題集 (家庭科教育振興会)

学習の到達目標	<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、生活の質の向上や、社会を支え生活産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。 生活産業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、生活産業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
----------------	--

評価の観点と評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けている。	生活産業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、生活産業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養おうとしている。
作品提出、実技評価など	作品提出、実技評価など	作品提出、実技評価など

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
4 12	<p>オリエンテーション 子どもの表現活動について</p> <p>造形表現技術</p> <p>言語表現技術</p>	<ul style="list-style-type: none"> 幼児の描画の特徴や方法、読み聞かせの姿勢、絵本の種類など、保育に関する専門的な知識を習得しようとしている。 「折り紙」の基礎技術や、「描画」・「貼り絵」で幼児の心を豊かに育む画面を構成する表現技術を身に付けている。 紙芝居や絵本の読み聞かせや、お話の創作を通して、幼児の発達段階にふさわしい言語表現の基礎的技術を身に付けている。 	○	○	○
12 1	<p>作品制作 グループ制作</p> <p>学習の成果のまとめ 課題研究発表</p>	<ul style="list-style-type: none"> 家庭科の各科目や技術検定取得のための学習を通して得た知識と技術を活用し、さらに発展させて高度な技術に挑戦したり、使う人の状況に応じた工夫をしたりするなど、創意工夫した作品を制作している。 明確な目的意識を持ち、実際の・体験的な学習を行おうとしている。 制作した作品やお話をもとに幼児の心を育む作品の特徴や制作における工夫点などを様々な表現方法で発表している。 自ら設定した目標について学習の成果を振り返り、自己評価している。 	○	○	○